

平成30年度 第2回多摩区支え合いのまちづくり推進会議 会議録

会議の概要

開催日時	平成31年3月22日（金）13時30分から15時まで	
開催場所	多摩区役所1階 講堂	
出席者の氏名	委員	青木義明（多摩区食生活改善推進員連絡協議会） 有北いくこ（多摩区子ども総合支援連携会議） 大澤敏夫（菅地区社会福祉協議会） 岡本次郎（多摩区老人クラブ連合会） 和秀俊（田園調布学園大学） 木澤静雄（登戸地区社会福祉協議会）
	多摩区地域包括ケアシステム推進本部会議幹事会委員・事務局	小林由紀（地域包括支援センターしゅくがわら） 中村健（多摩区医師会） 古谷欣治（多摩区町内会連合会/中野島地区社会福祉協議会） 山口正芳（区長推薦） 山本望（多摩区地域自立支援協議会） 吉田稔（多摩区商店街連合会）
欠席委員	石本孝弘（区長） 塚本和秀（保健福祉センター長） 田中仁志（危機管理担当課長） 石塚秀和（総務課長） 岩上雅博（企画課長） 吉澤朋充（地域振興課長） 豊村和弘（区民課長） 竹田和也（保険年金課長） 徳永のり子（児童家庭課長） 山口孝子（高齢・障害課長） 岩崎美穂（保護第1課長） 瀧澤浩子（衛生課長） 眞川幸治（衛生課担当課長） 荒井康弘（道路公園センター整備課長）	豊田美由紀（地域みまもり支援センター担当部長） 鈴木宣子（地域支援担当課長） 曾我利江（地区支援担当係長） 高橋真奈美（地区支援担当係長） 正木久美子（地域サポート担当係長） 石垣秀之（企画調整担当係長） 今川明（企画調整担当） 小木曾由樹（企画調整担当）
議事	(1) 平成30年度地域包括ケアシステムの取組について (2) 地域福祉計画について ア 意見交換 基本目標2「多世代交流でつながる地域づくり」について イ 川崎市・各区地域福祉計画の評価について (3) その他	
傍聴人の数	0名	

配付資料	資料1…名簿 資料2…多摩区支え合いのまちづくり推進会議運営要綱 資料3…地域包括ケアシステムの推進に向けた取組の進捗状況 資料4…平成30年度下半期の主な取り組み 資料5…第5期多摩区地域福祉計画（抜粋） 資料6…川崎市・各区地域福祉計画の評価について 参考資料1…新聞記事【タウンニュース】（抜粋） 参考資料2…世代の種類と特徴 参考資料3…新聞記事【朝日新聞】（抜粋） 参考資料4…アンケート結果「世代間への意識の違いについて」
------	--

議事要旨

発言者	発言要旨
事務局 (豊田部長)	第2回多摩区支え合いのまちづくり推進会議 開会の挨拶。 会議録のための録音設置、傍聴者等の説明。
石本区長	区長より挨拶。
事務局 (豊田部長)	続いて、座長選出を行う。前回の会議に引き続き、和委員にお願いしたいと思うが、いかがか。 (一同承認) それでは、この後の議事の進行は和委員にお願いしたい。よろしく願います。
和座長	それでは、次第に従って議事を進行する。 議事(1)平成30年度地域包括ケアシステムの取組について、事務局より説明をお願いします。
事務局 (今川)	議事(1)平成30年度地域包括ケアシステムの取組について 資料3 地域包括ケアシステムの推進に向けた取組の進捗状況 資料4 平成30年度下半期の主な取り組み 参考資料1 新聞記事【タウンニュース】(抜粋) リーフレット 生田ご近所パワーアップ集会レポート に基づいて説明。
和座長	ありがとうございました。 何か御意見・御質問等はあるか。
有北委員	様々な取り組みについて、行政の縦割りが気になる。企画課で実施しているコミュニティ施策の活動が地域包括ケアシステムの取組と重複していて、似たようなワークショップをあちこちで何度も実施している。そこから「まちの広場」や「ソーシャルデザインセンター」をつくろうという具体的な動きもあるが、そことの連携はどうなっているのか。市民の活動ということで、まちづくり協議会も似たような取り組みをしている。それぞれの連携が取れていないのはもったいないと常日頃から感じているので、今後どうするつもりか伺いたい。 住まいの菅地区の菅町内会の加入率が5割をきっている。どんどん減少している。町会を中心としたアプローチを進めているようだが、住んでいる地区は町会から退会してしまっている。それぞれの事情があり退会しているのだが、今後、町会に加入していない地域はどうなっていくのかと不安を抱えている。町会に加入していない世帯へ、このような良い取り組みなど様々な情報が届かず、住民がバラバラになりかねない。ということが気になる。
事務局 (石垣係長)	御意見ありがとうございます。 縦割り行政というご批判は様々な機会にいただく。 地域包括システムの推進につきましては、関連計画の上位概念として位

発言者	発言要旨
	<p>置付けるとされておりますので、川崎市全体で地域包括ケアシステムの考え方は、同じ方向を向いて取り組むべきだと考えている。一方で、地域包括ケアシステムは保健福祉に軸を置いた取り組みになっている。もともとは、介護保険制度のなかで高齢者を対象とした取り組みであるが、川崎市では、子どもからお年寄り、障がいのある方もない方も様々な方を対象として進めている。その中で、他の施策との境界が見えづらくなっていることは事実である。地域包括ケアシステムは介護保険制度がもともとの出発点である。介護事業者が担っていた生活支援サービスを専門家が担っていけなくなっているため、地域の中で補完をしなければいけない。そのために、地域でつながり、助け合いを進めていかなければいけないというのが、地域包括ケアシステムのスタート地点である。現在は第2段階ではあるが、他の施策との連携が図れていないと見えることもあるが、今年度実施しているシンポジウム等は企画段階から、企画課や地域振興課と調整して進めている。今後も、他の施策と連携し、試行錯誤をしながら、進めてまいりたい。</p>
石本区長	<p>これまで、町内会・自治会を中心にアプローチしていたが、加入率がこのように下がってきていると、町内会・自治会を通じて一律に皆様にお伝えする、何かを見出すというのが難しくなってきているのは事実である。</p> <p>町内会・自治会の活動以外で様々な分野でコミュニティが出来上がっているため、地縁の団体だけでなくこのようなコミュニティがつながることで、新たな発想、解決策が見つかるのではないかと模索するのが今回の新しいコミュニティ施策の考え方であるため、地域のコミュニティが上手く連携できるのであれば、その上で地域包括ケアシステムの取り組みが上手く生きて、他の取り組みと連携が図れると考えている。様々な施策が同時進行でご迷惑をおかけしているのは確かですと申し訳ないのですが、地域のコミュニティは全ての施策の根底にあり、そこからつながり、様々な取り組みが派生してくることを期待して我々も進めておりますので、御協力をお願いいたします。</p>
和座長	<p>今までのアプローチだとなかなかフッキングしづらい状況になっている。行政は様々なアプローチで、多様な方に届くように準備を進めているという段階だと理解している。</p> <p>様々な施策に携わっている方はどれも同じと感じて大変だとは思いますが、そのような方につなぎ役になっていただくことが大切だと考えますので、ぜひ今後もお願いしたい。</p>
有北委員	準備期間が長くないようお願いしたい。
中村委員	<p>様々な会議に参加すると、全て一緒だと感じる。「自分達が一番よくやっている」という考えを捨て、隣と隣が手を組むと広がりもできるのでは。町内会・自治会の加入についても、入らなければ村八分になるのではなく、加入すれば「こんなにいいことがある」という魅力を伝えられるようになる</p>

発言者	発言要旨
	<p>と、加入率も上がり、また低下の理由も見えるようになるのではないかと、タウンニュースへの掲載については費用がいるのか。</p> <p>タウンニュースは様々な方が購読している。良い情報源になるのではないかと。</p>
石本区長	<p>取材をしてもらい、記事として書いてもらうのは無料。枠を確保して、活動等をPRする場合は有料となる。</p>
山口委員	<p>生田と中野島の取り組みに参加した。</p> <p>開催趣旨、対象者を明確にして実施した方がよいのではないかと。</p> <p>中野島については、様々な団体が参加して、意見交換をしていたのは良いと感じた。生田については、地域の方々の参加は少なく、民生委員・児童委員が多いと感じた。活動をする人を対象にしたのか、地域の方を対象にしたのか。町内会・自治会にとっても参考になる事例が多かった。広報の仕方を工夫してみても。</p>
事務局 (石垣係長)	<p>団体同士の活動を紹介し、知り合う機会を提供するのが、今の段階である。メインターゲットは活動者。生田については、民生委員・児童委員には気になる方にお声掛けを依頼したので、民生委員・児童委員の方が多く印象になったのではないかと。しかし、一般の参加が少ないことも事実である。そのため、レポートを作成し、町内会の御協力をいただき地域に配布し、様々な機会でも周知をしている。</p> <p>いきなり、一般の方に参加を促すのは難しいので、向こう数年は活動をしている方を対象に実施を検討している。</p>
和座長	<p>レポートを拝見すると、一般の方を対象に実施するイベントだったのかなと感じる。行政がターゲットのステージを定めているのであれば、それを提示するようなひと工夫が必要なのでは。</p>
和座長	<p>続いて議事(2)地域福祉計画 ア意見交換について、事務局より説明をお願いします。</p>
事務局 (小木曾)	<p>議事(2)地域福祉計画 ア意見交換について</p> <p>資料5 第5期多摩区地域福祉計画(抜粋)</p> <p>資料6 川崎市・各区地域福祉計画の評価について</p> <p>参考資料2 世代の種類と特徴</p> <p>参考資料3 新聞記事【朝日新聞】(抜粋)</p> <p>に基づいて説明。</p>
和座長	<p>ありがとうございました。</p> <p>多世代、世代間交流は課題が多いと感じられているかと思う。課題から入ると暗くなるので、参考資料2の世代の種類の特徴をからみってみると、ひとつ足りない世代として「ゆとり世代」の次は「つくし世代」がある。1986年以降の世代で、つくす世代なので、自分が楽しむ、自分事にとらえ、人と共有したいという意識がある。だからこそ人につくしながら自分の中で</p>

発言者	発言要旨
	<p>コミュニティをつくっていくという新しい世代。</p> <p>「つくし世代」は今までと違った感覚で新しいコミュニティを作っている世代。今でいう33歳以下。1992年がターニングポイントで、バブル崩壊、学習指導要領の変更、個性を尊重する評価軸に変更、IT、共働き世帯が専業主婦を上回った時期。多世代交流を考えた時、それぞれの世代の特徴をとらえないと難しいと考えるので、少し意識してみてください。</p>
山口委員	<p>若い世代に何を期待するのか。若い世代が考えるべきでは。今、知る様々な事をもっと若いうちに知りたかった。</p>
木澤委員	<p>若い世代は忙しい。朝から晩まで働いている。その世代をボランティア活動に呼び込むなどは難しい。</p>
有北委員	<p>中野島多世代つながり愛プロジェクトで子どもを中心にして取り組みを進めていくと話されていた。始まった当初は、若い世代とお年寄りのお互いの助け合いを強調されていたので、方向性が変わったのかなと感じた。</p> <p>子育て支援に26年携わっていて、関わっている方も皆さん60代前後になっているが、ずっと小さい子どもや若い世代と触れ合っているから元気。子どもを中心とした活動の広がりが大切なのではないかと、言い続けてきて、やっとそこにたどり着いたのだと感じた。</p> <p>昨年、独自で「中野島子ども・子育て応援ネットワーク」というものを作っている。その都度違う団体に声掛けし、ボランティア交流会を2回開催している。3回目は4月6日、6月、8月に開催を予定している。中野島という地域だけでも「子ども」をキーワードにつながる人たちは団体も個人もとても多い。でもその人たちが集まることができる場が無い。そのため、ネットワークを作った。参加者は多世代。このネットワークの核になっているのが「つくし世代」のお母さんたち。何故こんなに一生懸命やってくれるのかと感じていたが、和先生のつくし世代の話を聞いて腑に落ちた。つくし世代のお母さんたちが頑張ってくれているので、私たちはそれを助けながら世代の順送りをしていくことの方がこれからは大事なのではないかと感じている。若い世代の役にたって引退できればベストだと感じている。</p>
和座長	<p>現役世代は忙しくてなかなか地域には入れないのも事実だが、忙しい中でも「これになら」と自分の価値観に合うものには時間とお金をさくという感覚が「つくし世代」は変わってきている。一世代前の価値観と今の世代の価値観、地域の取り組みが変わってきている過渡期だと感じている。</p> <p>町内会・自治会の活動の加入率は全国的に減少しているが、ある研究では「趣味活動は面白いが、メンバーが変わらないので飽きてきている。実は、町内会・自治会活動は面白いのでは」との考えがつくし世代で増えてきている。とある。やはり少し価値観が変わってきている。そこにどのようにアプローチしていくかが、今後の課題なのではないか。</p>
木澤委員	<p>自分達が町内会・自治会活動をしていて、楽しくなければ人は集まってこない。町内会の副会長として様々な世代が楽しめるようにと企画して活動をしている。今度、桜まつりを実行して7回目になる。役員だけで実施する</p>

発言者	発言要旨
	<p>のではなく、ボランティアとして参加してもらい、年寄りから子どもまで楽しめる企画をと、常に町内会で考えて活動している。</p> <p>そうしないと、町会の加入率は高まらないのでは。</p>
和座長	<p>もう一点大事な視点として、私自身も町内会では「若手」と言われて活動している。その中で質問を受けたのは「楽しいことをたくさんやれば加入率が上がるのでは」と言われたが、楽しいイベントは町内会以外にも沢山ある。あえて、町内会を選ぶのか。むしろ共働きが当たり前の状況で、町内会・自治会の方に朝・夕の登下校の見守りをしてもらっているから、安心して仕事に行ける。町内会・自治会の方に自分達の子どものを守ってもらっていることが大切なのだと感じながらも、なかなかお礼も言えない。ということもあるので、楽しいイベントなどでわいわいと交流できたらその機会もできる。この二つの視点が必要では、と話しをしている。楽しいことがたくさんある中で、「町内会の活動に」と選ばれるためのロジックは必要だと考える。</p>
中村委員	<p>少年野球などは共働き世帯も参加している。みんな忙しくても、参加すれば何とかなるのでは。「楽しくて」参加するのが一番だが、参加してみることから始めてみるのがよいのでは。</p>
和座長	<p>なぜ、多世代の交流が必要だと思いますか。多世代である必要があると思いますか。</p>
有北委員	<p>地域で活動していて、「知恵の伝達」が欠けていると感じている。</p> <p>顔と顔を合せる関係の中で、行われるはずなのだが無くなっている。</p> <p>子育て支援の活動の中でも何度も同じことを繰り返している。世代間で本来ならつながっていることが、ぶつ切り切られていると感じている。人として知恵を身に付けるためにも多世代交流が必要なのでは。</p>
和座長	<p>日本人は意識が内向きなので、いかに島国意識を外に向けるかが大切。色々な世代がいて、色々な人がいる、場所があるのが当たり前だね。という意識を外に向けないと、様々な課題も意識が内向きなので深刻化しているので、意識を外に向けるために多世代交流は必要だと感じている。</p> <p>皆さんも地域で活動を進める中で、「なぜ多世代交流が必要なのか」を今一度考えながら進めていただけると、この懇談会の次のテーマ『多様な主体が参加する地域づくり』『見守り・支え合いのネットワークづくり』につながっていくのではないのでしょうか。</p>
和座長	<p>それでは、最後に議事（２）地域福祉計画 イ 川崎市・各区地域福祉計画の評価について、事務局より説明をお願いします。</p>
事務局 (小木曾)	<p>議事（２）地域福祉計画 イ 川崎市・各区地域福祉計画の評価について 資料6 川崎市・各区地域福祉計画の評価について に基づいて説明。</p>
和座長	<p>ありがとうございました。</p> <p>何か御意見・御質問等はあるか。</p>
山口委員	<p>毎年目標はあるのだろうかから、その目標が達成した、していないなどは載せないのか。「こういうことをやりました」だけなのか、目標が数字で表せ</p>

発言者	発言要旨
	るのか。
事務局 (石垣係長)	<p>基本的に市の地域福祉計画と区の地域福祉計画は一体であるという考え。区の計画は市の計画に掲載されていない独自の取り組み、地域の取り組みを掲載するというのが本来だが、多摩区の地域福祉計画はそこまで整理されていない。</p> <p>第6期計画については、市のガイドラインを元に地域の取り組みに対して、区がどのように支援をしたかを掲載するようにする。</p> <p>市の計画は、市の総合計画があり目標、数値に基づき評価をしている。区の福祉計画については、そのような目標は基本的にはありません。</p>
和座長	<p>地域福祉計画の評価は、事務局の説明があったように、振り返りに近い。市の計画はこう、区の計画はこうだと。評価ということばではわかりにくいようだ。</p>
中村委員	<p>計画をする。計画して報告はするけど、課題は何で、次年度こうするというものがない。</p>
有北委員	<p>地域福祉は続いていくものなので、長年この会議に携わってきて、積み重ねの中で、「評価」というより、変化をみていくものとして判断するのかなと考えている。地域福祉には到達点はないのでは。これが完成したから、お終いということはない。課題解決に向け取り組む人が増え、少しずつ良い地域になっていると感じられるというような、微妙な変化をみていくものでしかないのかと思う。</p>
和座長	<p>他の自治体で地域福祉計画の審査会の会長に就任しているが、他都市では目標を数値化していることで逆に市民の方から「本当にこれはそうなのか」と意見がある。地域福祉はプロセス重視のため「評価」という言葉が合わない計画。どのような変化があり、どのような実績、積み重ねがあるかが重要なのだと考える。</p>
山口委員	<p>平成30年から平成32年の評価についてはPDCAサイクルでまわしていくのであれば、区の計画は？</p>
事務局 (石垣係長)	<p>市全体として、一律のサービスを提供する上での評価としてPDCAサイクルがある。先ほども述べましたが、区の計画については、市の事業を区の事業として再度再掲しているものもあり整理ができていない。次期計画については、「評価」との関係性がわかりやすくなるよう整理していきたい。</p>
和座長	<p>続いて議事(3)その他について、事務局より説明をお願いします。</p>
事務局 (小木曾)	<p>来年度の当会議について、7月と2月に開催を予定している。 また改めて案内を送付する。</p>
和座長	<p>ありがとうございました。 以上で、議事は終了する。 それでは、進行を事務局へお渡しする。</p>

発言者	発言要旨
事務局 (豊田部長)	<p>和座長、議事の進行をありがとうございました。皆さまの御協力ありがとうございました。</p> <p>それでは、本日の会はこれにて閉会する。閉会に当たり、保健福祉センター長の塚本から御挨拶申し上げる。</p>
塚本保健福祉 センター長	閉会の挨拶。
事務局 (豊田部長)	これにて第2回多摩区支え合いのまちづくり推進会議を閉会する。御協力ありがとうございました。
	閉会

以上